

今昔村上天皇ノ御代ニ、舊宮ノ御子ニテ、左京ノ大夫□□ト云人有ケリ、○中略歩ビハ背ヲ振り、尻ヲ振テゾ歩ビケル、

〔源氏物語行幸二十九〕たけだちそゞろかに物し給に、ふとさもあひて、いとしうとくにおも、ちあゆまひなど、大臣といはんにとらひ給へり、

〔源氏物語湖月抄行幸二十九〕細歩アユミぎま也、晝歩體也、

〔類聚名義抄五〕歩カチヨリ行ユク

〔倭訓栞前編六〕かち。日本紀に歩をよめり、又徒行をかちよりゆくとよめり、今もかちはだしなといへり、

〔日本書紀三〕神武。戊午年四月甲辰、皇師勸兵カチヨリ、步趣カチヨリ龍田、

〔萬葉集十一〕古今相聞往來歌、寄物陳思

山科強田山馬ヤシナノコノクマノウマ雖在步シテカチヨリ吾來汝念ウレナヒカ不得、

〔源氏物語夕顔〕君にむまは奉りて、われはかちより、く、りひきあげなどして出たつ、

〔枕草子九〕笛は

よこぶえいみじうおかし○中略車にても、かちにても、馬にても、すべてふところにさしいれても、たるも、何とも見えす、さばかりおかしき物はなし、

〔信玄家法下〕一宿其外歩行之時、付前後左右心、不可油斷事、臣軌曰、事不愼者、取敗之道也、

〔陰德太平記十三〕富田川合戰之事

城中ノ兵共、是コソ究竟ノ時ナレトテ、大西十兵衛、本田豊前守、立原備前守等打連テ、二千餘人皆歩行立ニ成テ、彼河本ガ館ヘ切テカ、ル、

〔倭訓栞中編十三〕たじ。俗に小兒歩を習をいへり、跂字なるべし、梵書に多し、跂は跂字去聲、